

香港株式市場フラッシュ

半導体株の主役を担う中国企業、DeepSeek のインパクト

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

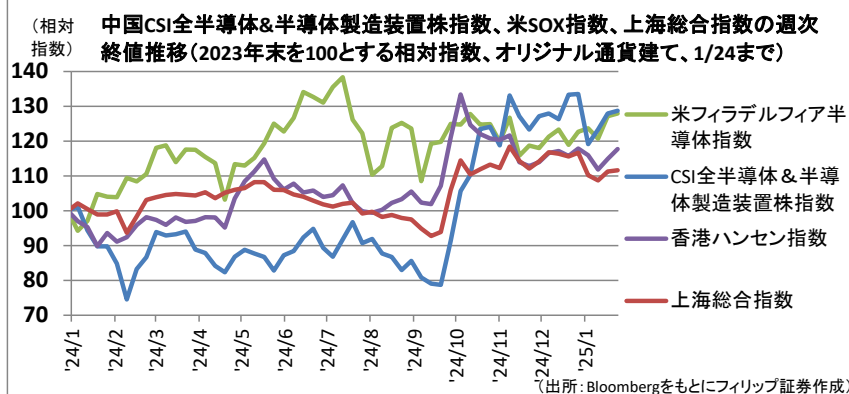
2025 年 1 月 29 日号(1月15日作成)

”半導体株の主役は米国から中国へ“

香港株・中国株は、中国政府当局が昨年 9/24 以降に打ち出した景気刺激策を受けて歴史的な急騰劇を演じた。その後は、香港ハンセン指数が 10 月の国慶節前でピークを打って売りに押され、上海総合指数も横ばい圏で力強さを欠いている。

これらに対し、中国の半導体および半導体製造装置の全ての上場企業から構成される「CSI 全半導体 & 半導体製造装置指数」は、米大統領選後に米国で対中国強硬派が勢力を増してきていることを背景に、半導体・半導体製造装置の国産代替の機運が高まったことを受けて上昇が加速。現地通貨ベースの指数で 23 年末からの騰落率を見ると、CSI 全半導体 & 半導体製造装置指数は足元で米フィラデルフィア半導体指数と同水準にあり、昨年秋以降は大きく上回っている。

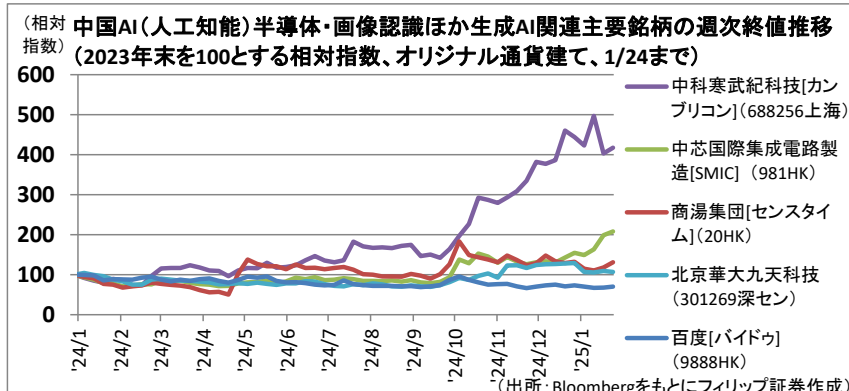
習近平主席による「科学技術の高水準な自立自強の実現」の指示の下、半導体国産化を焦眉の急として、半導体製造装置にとどまらず、先端パッケージ材料など半導体サプライチェーン全体の投資機会が高まる可能性もあるだろう。



“DeepSeek の香港株・中国本土株へのインパクト”

中国発の AI (人工知能) 企業「DeepSeek」が開発した高性能 AI が市場で脚光を浴びている。DeepSeek は 2023 年に中国・杭州で、クオンツ運用などを手がける資産運用会社「幻方」が設立。オープンソース活用による低コスト開発に特徴があり、米国製の最先端半導体チップの使用が制限されているなかでも高性能な生成 AI にたどり着いたことに、市場では驚きをもって受け止められている。中国株式市場では AI 開発に注力しているネット検索大手の**百度[バイドゥ](9888 香港)**、AI 画像認識システムを擁する**商湯集団[セnstaym](20 香港)**などが買われた。

高性能 AI 開発のために米エスビディア製 AI 半導体が必ずしも必要ではないということになれば、半導体国産化を急ぐ中国政府の国策の下で主要な中国半導体関連企業への追い風となりそう。半導体ファウンドリ中国本土最大手の**中芯国際集成电路製造[SMIC](981 香港)**、AI 向け半導体メーカーの**中科寒武紀科技[カンブリコン](688256 上海)**、半導体自動設計ツール(EDA)メーカーの**北京華大九天科技(301269 深セン)**などの半導体製造に関連した中国主要企業が注目される。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄 (全96銘柄)における終値の昨年末来騰落率

前回基準日: 20250114

基準日: 20250128

順位	2024年末来騰落率・上位10銘柄	(%)	前回順位
1	小鹏汽車	26.5	3
2	金蝶国際軟件集团[キングディー・ソフトウェア]	20.5	27
3	中芯国際集成电路製造 [SMIC]	19.5	1
4	康師傅控股 [ティンイー]	17.2	4
5	網易 [ネットイース]	16.3	5
6	金山軟件 [キングソフト]	16.2	30
7	JDドットコム	15.4	18
8	JD Health International Inc (京東健康)	14.1	11
9	小米集団[シャオミ]	11.0	33
10	中国宏橋集団[チャイナ・ホンチャオ・グループ]	10.4	36

順位	2024年末来騰落率・下位10銘柄	(%)	前回順位
96	ニュー・オリエンタル・エデュケーション・アンド・テクノロジー	-22.7	59
95	中升控股 [チョンサン・グループ・ホールディングス]	-12.0	96
94	中国生物製薬 [シノ・バイオフーマシューティカル]	-11.9	86
93	中国蒙牛乳業[チャイナ・モンニユウ・デイル]	-11.8	95
92	金沙中国 [サンズ・チャイナ]	-11.0	92
91	香港鐵路[MTRコーポレーション]	-9.1	90
90	東方海外国際[オリエン・オーバースー]	-8.9	57
89	East Buy Holding Ltd	-8.8	91
88	信義玻璃控股[信義ガラス]	-8.5	94
87	Haidilao International Holdi (海底撈)	-8.5	93

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2025年1-2月: 中国主要経済指標】

●1月17日(金)

- 4Q(10-12月) GDP<前年同期比>: 前回+4.6%、結果+5.4%
- 12月小売売上高<前年同月比>: 前回+3.0%、結果+3.7%
- 12月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+5.4%、結果+6.2%
- 1-12月不動産投資<前年同月比>: 前回▲10.4%、結果▲10.6%
- 1-12月固定資産投資<前年同月比>: 前回+3.3%、結果+3.2%
- 12月新築住宅価格<前年同月比>: 前回▲0.20%、結果▲0.08%
- 12月住宅販売面積<前年同月比>: 前回▲20.0%、結果▲17.6%
- 12月調査失業率<前年同月比>: 前回5.0%、結果5.1%

●1月20日(月)

- 1年ローン・プライムレート: 前回3.10%、結果3.10%
- 5年ローン・プライムレート: 前回3.60%、結果3.60%

●1月24日(金)

- 1年中期貸出ファシリティ金利: 前回2.0%、結果2.0%

●1月27日(月)

- 1-12月工業利益<前年同月比>: 前回▲4.7%、結果▲3.3%
- 12月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.1、結果49.1
- 12月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回52.2、結果50.2

●2月3日(月)

- 1月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.5

●2月5日(水)

- 1月(財新)サービス部門PMI: 前回52.2

●2月7日(金)

- 1月外貨準備高: 前回3.20兆USD

●2月9日(日)

- 1月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回+0.1%
- 1月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回▲2.3%

●2月9日(日)~15日(土)

- 1月資金調達総額: 前回32.26兆元
- 1月新規人民元建て融資: 前回18.09兆元
- 1月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+7.3%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、当レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。